YCだより
YC(読売新聞販売店)より耳寄りな情報をお届けします。
県内のスポーツ情報も随時掲載致します。

デザインリニューアル
東京ドーム周辺の自動販売機など限られた場所でしか販売されていない
「ちょっとプレミアム」な缶コーヒーをご賞味あれ!!

※画像はイメージです。
読売新聞
ジャイアンツカフェは読売巨人軍公認の飲料です

申込番号 939053
ジャイアンツカフェ ブラック・無糖
●容量:185g(1缶)●原材料名:コーヒー(国内製造)●日本製
賞味期限：2026年4月5日

申込番号 939054
ジャイアンツカフェ 微糖
●容量:190g(1缶)●原材料名:コーヒー(国内製造)、砂糖、濃縮乳、全粉乳、デキストリン／乳化剤、甘味料(アセスルファムK)●日本製
賞味期限：2026年4月5日

各1ケース30本入り 4,200円(税込)
＋ 税込ご注文金額いくら迄の送り先につき 送料770円(税込)

代引き手数料 込み 宅配便
■ご注文・お問い合わせは通話無料のフリーダイヤルで
0120-130-170
AM9:00～PM8:00(土・日・祝日もお受けします)
企画番号 5957 ※ご注文の際は企画番号・申込番号をオペレーターにお申し付けください。
受付締切 2025年3月27日(木) 商品配送 4月上旬
支払方法 ①商品お届けの際に代金と引き換え(代引手数料無料)
②クレジットカード(翌月一括払い、リボ払い、分割払い)
※ご本人名義に限ります。※一部、提携カードで受け入れできないものもございます。

お客様のご都合による返品はお受けできませんので予めご了承ください。但し、商品の汚損・破損などについては、商品到着後、直ちにご連絡ください。返送料当社負担で新しい商品とお取り替えいたします。
●返品・交換は商品到着から8日以内にご連絡ください。
●ご注文をいただいた方(以下「お客様」)のお名前、ご住所、電話番号、申込内容等の個人情報は、株式会社読売情報開発(以下「当社」)とお客様の地域を担当する読売センター(YC)が共同で利用し、商品のお届けのほか、お客様からのご連絡やお問い合わせへの対応、販売促進キャンペーンのご案内の送付、新聞の配達・集金業務の遂行、各種サービス・イベントのお知らせ、ご購読の勧め、ご購読の延長、新聞以外の取扱商品のご案内、YC及び読売グループが協力・提携する企業の商品・サービスのご案内、宅配業務に利用させていただく場合があります。なお、お客様の個人情報は、当社とYCが責任をもって管理します。個人情報の取り扱い、読売グループでの共同利用については、https://info.yomiuri.co.jp/privacypolicy/kyoudouriyou.htmlをご確認ください。

読売通販 ねっぱ 株式会社 読売情報開発 リテール課
〒102-8618 東京都千代田区平河町2-13-3

輝かしい成績残し10人笑顔

小針ヤンキーズ 卒団式

県北少年野球選手権大会初4連覇

ウィナーズカップ2年連続準V

読売少年野球ウィナーズカップで2年連続準優勝を飾るなど、県内屈指の強豪・小針ヤンキーズ（伊奈町）が2月11日、伊奈町総合センターで卒団式を行った。4月から中学生となる卒団生10人がこれまでの軌跡を振り返りながら、さらなる飛躍を誓った。

卒団生
櫻井 勇心
楠 晃輔
齊藤 理一
尾台 優斗
小室 皓大
大河内 心晴
白木 奏多
稲村 心
松橋 一真
鎌田 耀

多くの結果を残して卒団する小針ヤンキーズの6年生

歴代最強世代の声も

4月から中学生

「第48回さよなら会～6年生を送る会～」でやや緊張した表情で壇上に上がった10人の6年生。かたわらには多くの優勝旗やトロフィーなどがズラリと並び、その強さを物語った。2024年のAチーム戦績は、練習試合を含め72勝18敗。主将としてチームをまとめてきた尾台優斗外野手は「満足いく結果を残すことができた」と笑顔で振り返った。

県北少年野球選手権で大会初の4連覇を達成。各地区の優勝チームで争われる読売少年野球ウィナーズカップでは23、24年と準優勝を飾った。いずれも尾台をはじめエース楠（くす）晃輔、4番の齊藤理一内野手らが5年時から主力として貢献した偉業だ。山本靖彦代表（70）は「尾台らが5年時から出て、学んだことを同期に還元してチームの底上げができた。来年度に50周年を迎えるチームで1、2の強さだった」と称えた。

新チームの杉江海翔主将（5年）は「負けていても諦めない姿勢が勉強になった。格好良かった」と見習い、ウィナーズカップでスタメン出場した伊藤憲伸捕手（5年）は「先輩たちに教えてもらったことを生かして、今度こそ優勝」と誓った。

後輩への置き土産もしっかり残して巣立っていく6年生。1年時から入団した楠は「冬のトレーニングが一番きつかった」と思い出しながら、「でも乗り越えて強くなれた。もっと努力して甲子園、プロ、メジャーと進んでいきたい」と目標を設定した。

読者の声

熊谷市 I・Yさん（男性）「少年少女の記事が満載で4人の孫達もスポーツ好きになってほしいと願いつつ毎回記事を読んでます。初孫は中学1年生でソフトテニスをしているのが嬉しい限りです。いつかは本紙に掲載されることを願ってます」

さいたま市 O・Nさん（女性）「いつも感動をしながら拝見しています。日曜日にさいたま報知が入ってくると一番最初にチェックしています。これからも楽しみにしております」

鴻巣市 U・Kさん（女性）「さすがスポーツ報知の少年版ですね！全体的に楽しく拝見致しました。うちの父はスポーツ全般大好きでしたので、生前はずっとスポーツ報知を愛読していました。私は最後の芸能欄専門でしたけど今後共、楽しい記事をお願い致します」

川越市 I・Sさん（男性）「若い子供達が様々なスポーツに打ち込む姿に毎号感動しております。親バカ？ジジイ馬鹿？かも知れませんが息子のところに1昨年の11月に男の孫がやってきました。今からどのスポーツをしてくれるかな？と勝手に楽しみにしております」

和光市 T・Yさん（男性）「孫の小3が野球、小1がサッカーにそれぞれ夢中で活躍しています。両親が離婚してしまい、私たちが親の代わりとして必死に応援しています。『さいたま報知』の記事を読み聞かせ、県内の同年代の頑張っている姿を教え、ハッパをかけています」